JA阿波町ブロッコリー栽培資料

令和２年　吉野川農業支援センター

1 栽培管理

（１）堆肥、土壌改良資材の投入

・堆肥は毎年投入（牛糞堆肥なら２～３t/10a）
・石灰資材で矯正してｐＨを高めに維持
・未熟堆肥や生糞を投入する場合は、早く（定植2か月前までかつ8月末までに）すき込み、その後も数回耕転して空気を入れて腐熟を促進する
・鶏糞堆肥を利用する場合は500kg／10aまで
窒素分を3%程度含むので、その分の窒素分1%を元肥から減肥する

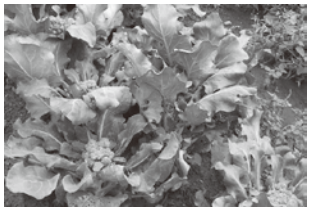
（２）元肥

・品種、作型、土質、地力により量を加減
（標準量：窒素16~19kg/10a)

◎施用事例
とくしまブロッコリー配合　100~120kg/10a
FTE　4~6kg/10a
BMリンスター　40~60kg/10a

（３）品種・作型の選定

・収穫作業の労力に応じた適正な栽培面積
・適切な定植時期
ボトニング、ブラインドなどのリスク
・早晩性、低温肥大性
・収量、品質の問題
アントシアンの発生、死花の発生、花蕾の形状
・病害抵抗性を考慮
（根こぶ病、べと病等）

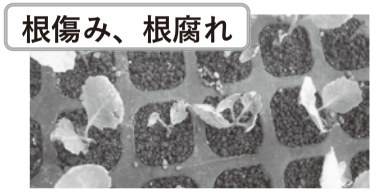


（４）育苗のポイント

・発芽を揃え、均一な苗に仕上げる
・徒長を防ぐ
過剰かん水は生育悪化に

べと病

根傷み、根腐れ



・かん水のタイミング

気温が上昇する前までにかん水
雨天時、曇天時は培土の湿り具合をみてかん水

晴天時、夏の暑い時期であれば、様子を見て適宜かん水を行う

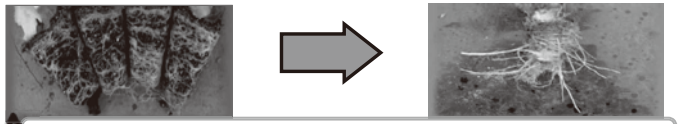
夕方、表面が乾くのが良い
乾いて苗が萎れている場合、葉水のみを与える

・施設に防虫ネット、育苗期の薬剤防除
・苗の順化

（５）定植・その後の管理

・植栽密度：畝間130～135cm、株間28～31ｃｍ、
２条植（条間45cm）
４，５００～５，０００株／１０ａ
・定植３～５日前に、プレバソンフロアブル５、ジュリボフロアブル、ベリマークＳＣ等をセル苗に灌注
・定植前にランマンフロアブル又は、オラクル顆粒水和剤をセル苗に灌注し、根こぶ病の予防をする

・老化苗を定植しないよう適期定植を心がける
・定植後は、株元を中心に灌水し活着を促進



⚠老化苗を定植すると根張りが悪く生育遅延に繋がる

（6）追肥

・即効性の化成肥料（ＮＫ化成、硫安、尿素等）で１回につき窒素成分で ３～5kg/10aを目安に３～４回施用する

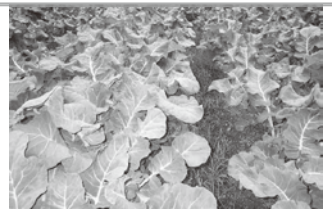
・出蕾以降の遅い時期に追肥は異常花蕾の原因になるので控える

・薬害を防ぐため茎葉に付かないように地面に散布

・追肥後は除草を兼ねて中耕、土寄せをする

株元にしっかり土を寄せ倒伏を防ぐ

株が大きくなってからの中耕は根を傷めてしまい逆効果になるので注意



・追肥のタイミング

◎施用事例１（夏植秋どり、早春植初夏どりの場合）

１回目：定植2～3週間後　窒素成分主体
　　硫安 20kg／10a　畦中央

２回目：定植30～40日後　（着蕾期）
　　ＮＫ化成 20kg／10a　畦両側や畦間等

◎施用事例２（秋植え冬どり、秋植早春どりの場合）

１回目：定植2～3週間後　窒素成分主体
　　硫安 20kg／10a　畦中央

２回目：定植50～60日後
　　ＮＫ化成 20kg ／10a　畦両側や畦間等

３回目：定植80～90日後
　　ＮＫ化成 20kg ／10a　畦両側や畦間等

４回目：着蕾期
　　ＮＫ化成 20kg ／10a　畦間

2　台風・ゲリラ豪雨

（1）圃場の準備

・水が溜まりやすい場所を把握する

・高畝栽培

・明渠又は排水溝を掘る

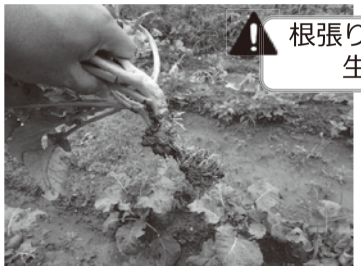
・サブソイラーなどで心土破砕する

（2）排水後の対応

排水後、肥料は間違いなく流亡する

速やかな追肥を（亜リン酸分も入った肥料で根も回復させる）、畝間をふさぐくらい株が大きいなら葉面散布も併せて実施

・土寄せ前、もしくは中耕に入れるようであれば、軽く中耕し、根に酸素の供給をする



根張りが不十分だと生育遅延だけではなく生理障害、病害のリスクも高まる

初期の根張りを確保し生育を安定させる

（3）活着不良・生育不良時の対応

・生育を注視し追肥する

（外葉が小さい・下葉が黄化している・根が弱い）

粒状肥料は効果が出るまでに半月程度（温暖時）必要

すぐに効かせたいときは、液状肥料を併用する

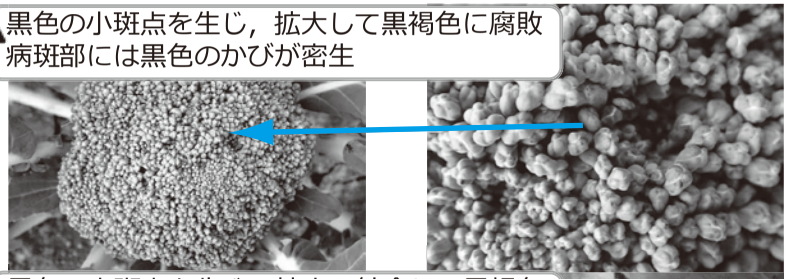
・根がやられているような場合は、速やかに亜リン酸が含まれた資材で根を回復させる

3 黒すす病

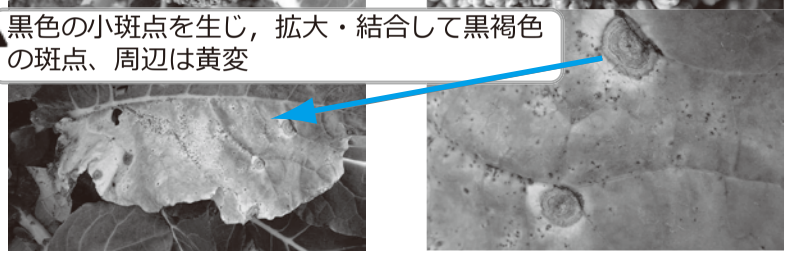
（1）特徴

- 発病適温：20～25℃付近
  菌糸生育温度：５～35℃
- 降雨と強風により発生が助長
- 病原菌は被害植物上で生存，胞子により伝染する

⚠ 黒色の小斑点を生じ，拡大して黒褐色に腐敗
病斑部には黒色のかびが密生



⚠ 黒色の小斑点を生じ，拡大・結合して黒褐色の斑点、周辺は黄変



（2）登録のある農薬

農薬名	使用時期	ＦＲＡＣ	希釈倍数	使用回数	その他登録
アフェットフロアブル	収穫前日まで	7(SDHI)	2,000倍	3回以内	菌核病
アミスター２０フロアブル	収穫３日前まで	11(QoI)	2,000倍	3回以内	べと病
シグナムWDG	収穫７日前まで	7、11(SDHI、QoI)	1,500倍	2回以内	べと病、菌核病
パレード２０フロアブル	収穫前日まで	7(SDHI)	2,000倍	3回以内	菌核病
メジャーフロアブル	収穫前日まで	11(QoI)	2,000倍	3回以内	べと病、菌核病

2020.5.13適用拡大
2020.6.22現在

- 定植約30日後処理＋出蕾期の処理が必要
  農薬が葉裏と花蕾発生部分にかかるよう散布
  ※使用前には登録状況を再確認してください
- 黒すす病に類似する花蕾腐敗病は細菌が原因のため、
  Ｚボルドーやベジキーパー等による予防が必要

4 根こぶ病

（1）特徴

- 発病適温：18～25℃付近
- 根にこぶが着生（生育停滞、凋れ）
- アブラナ科連作により発生が助長
- ロータリに付着、移動し伝染する
- 酸性土壌を好む

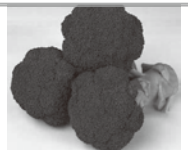
⚠ こぶによって根の維管束が圧迫され、水や栄養分が吸収されず、枯死にいたる

（2）対策

- 排水性
  排水対策はもちろん、過去に根こぶ病が発病した圃場では感染を助長するため畝間潅水は控える
- 作型
  低温時では増殖が緩慢で10月中旬以降定植かつ4月収穫できる作型は発病しにくい
- 高pH（7以上）
  石灰資材、転炉さいを施用しpHを上昇させる
- 輪作
  レタス類やホウレンソウ、ネギ、緑肥等と輪作することにより菌密度を低下させる
- 耐病性品種、農薬の活用
  （菌密度が高い圃場の防除例）

耐病性品種の使用
グリーンキャノン、緑竜等

＋ ＋



オラクル粉剤を土壌混和
定植前のセル苗にオラクル顆粒水和剤の灌注

発病状況や発生要因を把握し適切な資材、品種を組み合わせて対策する

JA阿波町　ブロッコリー採用品種の作型と特性について

品種名	播種期	定植期	頂花蕾収穫期	品種特性	根こぶ病耐病性	アントシアンレス
SK9-099	7月25日～	8月末まで（播種時期厳守）	10月下旬	高温期の過乾燥による死花に注意		
おはよう	7月下旬～8月上旬	8月下旬～9月上旬	11月上旬～12月中旬	低温伸長性に優れる中早生品種・べと病注意		○
緑竜（BL-649）	7月下旬～8月上旬	8月下旬～9月上旬	11月下旬～12月下旬	極端な早まきや多肥栽培を避け、適期栽培を心がける	○	
ブロッケンHP	7月下旬～8月上旬	8月下旬～9月上旬	10月下旬～11月下旬	花蕾肥大期の肥切れには注意		
全緑173	8月中旬～8月下旬	9月上旬～9月下旬	12月上旬～1月下旬	初期成育をしっかりさせ草勢を作る必要があるため、基肥を効かせる肥料設計を心掛ける		○
アーサー	8月中旬～8月下旬	9月中旬～9月下旬	12月上旬～1月下旬	湿害注意		○
りんな	8月中旬～8月下旬	9月中旬～9月下旬	12月下旬～2月上旬	早まきは花蕾の厚みが不足するため、播種期を守る		
深碧（BL-650）	8月中旬～8月下旬	9月中旬～9月下旬	12月下旬～2月下旬	高温時の多肥栽培で蕾粒が不揃いになるなど、異常花蕾となる場合がある	○	
ともえ	9月上旬～9月中旬	9月下旬～10月上旬	2月中旬～3月下旬	厳寒期の肥切れに注意		
はつみらい	9月上旬～9月中旬	9月下旬～10月上旬	1月中旬～2月下旬	10月上旬までに定植を厳守		
クリア	9月上旬～	10月中旬	2月中旬～3月下旬	草丈が低い、厳寒期の肥料切れに注意		○
SK5-114	9月中旬	10月中旬	2月中旬～3月上旬	10月上旬までに定植を厳守		
おはよう（トンネル）	11月下旬	1月上旬～1月中旬	4月上旬～4月下旬	老化苗・大苗はボトニングしやすい（凍害注意）		○
おはよう（被覆資材）	12月上旬～12中旬	1月中旬～2月上旬	4月中旬～5月上旬	老化苗・大苗はボトニングしやすい（凍害注意）		○
恵麟（トンネル）	11月下旬	1月上旬～1月中旬	4月上旬～4月下旬	おはようより収穫が早い、肥切れに注意		
恵麟（被覆資材）	12月上旬～12月中旬	1月中旬～2月上旬	4月中旬～5月上旬	おはようより収穫が早い、肥切れに注意		
おはよう	1月上旬	2月中旬～2月下旬	4月下旬～5月中旬	厳寒期の保温につとめる・低温で芯止まりしやすい		○
SK9-099	1月上旬	2月中旬～2月下旬	4月下旬～5月中旬	生育初期の低温では短茎になりやすいので極端な早まきはさける		
サマードーム	2月上旬	3月上旬	5月中旬～	耐暑性に優れる・病害虫の発生、花蕾腐敗に注意		
ブロッケンHP	2月上旬	3月上旬	5月中旬～	耐暑性に優れる・病害虫の発生、花蕾腐敗に注意		